

日銀の視点

皆さんは「現在」をどのよう
に捉えているでしょうか。

言うまでもなく、「現在」は、
これまでの積み重ね、過去の
らの結果です。一方で、見方
を変えれば、「現在」は、将
来の原因と考えることもでき
るはずです。年齢を重ねると、
人生の裏面という点において
は、過去の結果である「現在」
を嘆くよりも、将来の原因と
なる「現在」をどう捉えて、
どう行動していくかに気持ち
を切り替える方が、はるかに
有益であることに気付かされ

日銀水戸事務所長 安田 武

ます。

さて、これをわれわれの仕
事に置き換えると、皆さんが
将来にわたって安心して生活
できるよう適切に政策を運営
していく必要がある中で、将
来の原因となる現在の景気の
状況を正しく把握することは

方法が考えられます。

しかし、こうした方法だけ
では、調査から公表あるいは
データの入手から分析・利用
までに、どうしてもタイムラ
グが生じる面もあり、刻々と
変化する現在の景気の状態を
必ずしも正確に把握できてい

す取り組みを重視していま
す。例えば、消費の動向であ
れば、皆さんが知っているよ
うな百貨店やスーパー、ドラ
ッグストアなどに直接ヒアリ
ングを行い、商品の売れ行き
や消費行動の細かな変化を丁
寧に吸い上げています。

司ではなく、実際に見て、聞
いてきた担当だからです。転
じて、憶測や感覚だけに頼っ
た報告をしよつものなら、上
司から厳しく叱責されます。
若い担当は、そつやって仕事
への向き合い方を学んで一人
前に成長していきます。

将来の原因となる現在

多くの支店等

では、入行して
数年の若手がこ
うしたヒアリン

とても重要です。では、それ
をどうやって把握するのか。
まずは、政府などが公表する
経済統計やアンケート結果、
入手可能なデータを数学的な
モデルや統計的な手法で分析
した結果などを基に把握する

るとは限りません。そこで、
日銀では、東京の本店だけで
なく全国の支店等において地
域経済の動向を調査する担当
部署が、企業の皆さんからリ
アルタイムの「旬の声」を聞
いて、実際の景気判断に生か

グを担当しています。そつし
て得られた情報を職場に持ち
帰って議論する際、上司は、
担当からの報告をいったん全
て受け止めるのが流儀です。
肌感覚としての現在の景気を
一番知り得るのは、年長の上

実際、自分が報告を受ける
立場になってみると、若い人
ならではの着眼と指摘に、新
しい発見や気付きを得ること
も少なくありません。皆さん
にも、日銀に関する記事や報
道を見聞する際には、そつし
た若い世代の視点や地道な努
力が生かされていることを、
ぜひ知っておいてほしいと思
います。